

「アラカン」という言葉の意味するもの。

“アラサー”とか“アラフォー”という“新語”も、この頃では耳慣れた言葉となりました。いうまでもなく、「アラウンド・サーティー (around thirty)」あるいは「フォーティー (forty)」、三十歳前後とか四十歳前後といった意味ですが、その延長線上で使われているのが「アラカン」、つまり「アラウンド・カンレキ」、「還暦 (六十歳) 前後」というもの。六十歳といえば、これまでは定年退職の年齢とされていましたが、最近では定年も六十五歳、いや七十歳とも七十五歳とも言われるほど、いわゆる超高齢化社会を迎えています。

“明日からの生きがい”を模索している方々へ

人生百年と言われて久しいですが、アラカンの方にとってはまさに人生半ば。来し方を振り返り、人生の次の目標を模索されている方も多いかと思われます。ところで佛教でアラカンといえば阿羅漢 (あらかん)、つまり「最高の悟りを得た高僧」のことですが、いつの頃からか、アラカンに差し掛かった方々がそれこそ真の阿羅漢になることを願い、佛教の門を叩くことも少なからず見られるようになっていきます。



◆世界唯一のダイバーシティ僧堂 可睡齋 (Diversity: 多様性)

可睡齋でもこのところ、五十歳、六十歳を過ぎてから安居を希望する修行僧を、世界中から男女を問わず見かけるようになりました。彼らの多くが悩み多き人生に疑問を持ち、釈尊が開かれた仏教に「求める解答があるのでは」との思いを胸に上山し、若い修行僧に交じて修行に励んでいます。

そうした彼らは、心にやすらぎを覚えることもあり、自分の選んだ道は間違っていなかったと、改めてその選択が正しかったとして感謝の念を持つ者も目立ちます。

アラカンを迎えられた方々の中には、「これまでの自分とは違う、新しい自分の可能性を探したい」とお思いの方もきっといらっしゃるでしょう。そんな方は、ぜひとも可睡齋の門をくぐってみてください。新たな可能性を模索される中で、思ってもみなかった心の安らぎが見つかるかもしれません。



曹洞宗可睡齋専門僧堂

〒437-0061 静岡県袋井市久能 2915-1

TEL.0538-42-2121 FAX.0538-42-1429

E-mail.info@kasuisai.or.jp (ご連絡は^{いの}維那寮まで)